

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント コミュニティー		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	平成28年10月18日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2690800012-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切に、地域行事(地藏盆・敬老会等)に積極的に参加しています。レクリエーションには近所の名勝地(東福寺等)の散策や地域の喫茶店・お店に出掛けて、地域の人々と触れ合う機会を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は独自の理念を見直し振り返る機会を設け「利用者の尊厳や一人一人の生活、利用者に穏やかで小さな幸せを運びます」との理念と共に、家族と地域に開かれた場を目指し取り組んでいます。職員はコミュニケーションを取りながら様々な工夫を凝らし室内で出来るレクリエーションや脳のトレーニングを考えたり、利用者の出来る事の見極めて個々の力を活かせるケアに取り組んでいます。また併設するデイサービスと合同で開催する秋祭りでは、利用者が練習してきた手話を披露し、家族や地域の方との交流を楽しんでいます。食事はユニット毎に毎日冷蔵庫の中の食材を確認し利用者の食べたいものを取り入れ献立を決め、利用者の出来る事に携わってもらいながら、職員も同じ食卓に着き食事を摂り和やかに食事が楽しめるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には会社理念を唱和し、共有と確認をしている。理念になっている「しあわせ」にむけ利用者様を地域社会の一員として孤立しないで生活して頂けるようスタッフ一同努めている。	「絆を大切に」と言う法人理念を基に作成された事業所理念を職員間で話し合い見直し、エレベーター前とフロアーに掲示し朝礼時にも唱和することで理念を意識し共有しています。日々のケアを通して実践に取り組むと共に各ユニット会議の中で振り返る機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域との繋がりを持っている。地蔵盆・敬老会・運動会など地域行事にも積極的に参加している。地域の古紙回収にも協力している。地域の方々とお出合いの際は挨拶を交わしている。	町内会に入会し回覧板で様々な情報を得て、地蔵盆や敬老会に参加したり、運動会の見学にも出かけています。小中学生の体験学習の受け入れたり、事業所で行われる秋祭りは併設するデイサービスと合同で行い、回覧板やチラシなどで案内し地域の方や家族が参加し開催し交流しています。地域包括支援センターの協力の下認知症サポーター講座も開催しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ積極的に参加している。また事業所主催の秋祭りには地域の方々にも参加して頂き交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で出されたご意見を職員一同把握・共有してサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1度家族や利用者、シニアクラブ会長や地域住民、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催され、近況や運営状況の報告、行事や事故報告を行い、意見交換をしています。家族より看取り等についての質問があり都度説明を行っています。また、レクリエーションを続けてほしいという意見もあり、地域包括支援センターからのアドバイスも受けサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を毎回区役所に届けている	運営推進会議の議事録を市の担当者に直接届けたり郵送し事業所の実情を伝えています。具体的な問題点や制度上の分からない事はセンター長より市の担当者に相談していますが、内容によっては管理者が、直接電話で相談しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、会議の中で勉強会を実施して、理解を深めている。センターの前面道路は交通量が多く、危険が多いため玄関の施錠は実施しているが、外気浴や散歩等を通して、拘束感のないよう努めている。	身体拘束に関する法人の研修は年に一度あり参加者が議事録を作成し資料と共に回覧しています。また、事業所内でも資料を基に勉強会を開催し全員がレポートを提出し、自分が気づかなかったことも他の職員のレポートで学び、身体拘束をしないケアに努めています。日々のケアにおいても不適切な対応があれば職員間で注意を合っています。利用者が閉塞感を感じないように外気浴を行ったり、ユニット間は開放し自由に入出りできるようにしています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を実施している。入浴時や更衣時に身体状態の確認を行い、日々注意している。声掛け等についても職員同士注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の際に勉強会を実施して理解を深めるように努めている。支援例はないが、成年後見制度を活用しておられる利用者はいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には原則2名体制で対応し、十分な時間を取って説明し、質問等に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会、ご面会時に家族からのご意見・ご要望をお聞きする機会をもち、サービス向上に努めている。また玄関先にはご意見箱を設置している。	運営推進会議や家族交流会、家族の面会時には利用者の介護日誌を読んでもらい、直接意見を聞いています。外出の機会を増やして欲しいという要望があり介護計画に盛り込んだり個別の支援を行うなど、職員間で検討し、出来る事から実践し個々に報告しています。また、毎年行われる満足度調査の結果は玄関フロアに掲示し、家族にも郵送しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・グループホーム会議時には、センター長や管理者と直接話ができるような雰囲気づくりを心掛けている。定期的な面談も行っている。日常的にコミュニケーションを取るよう努めているが、まだ十分とはいえない。	全体会議やユニット会議の中で様々な意見や提案について話し合い検討しています。会議に参加できない職員は申し送りノートや日々のケアの中で前もって意見を聞いています。職員の意見から入浴時の安全を考慮しシャワーチェアを購入する等業務改善に取り組んでいます。悩みを抱えている職員には管理者が随時個別に面接を行い、感じた事が発言できる環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査を行い評価している。スタッフにゆとりがなく、日々の業務に追われているのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはトレーナー制度を設けている。研修への参加や毎月勉強会を行い、サービスの向上に努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流を図り、系列の他センターへ行く機会などを通して、サービス向上を図って、切磋琢磨している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。ご入居後も常にご利用者様の不安を傾聴し、安心して頂けるよう、信頼関係の構築にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、ご家族様よりお困り事・ご不安な事等お聞きし対応している。ご入居後も面会時に日常の様子を報告し、ご要望もお伺いし、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様や、ご家族様の意向を把握し、できる限りご協力できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等お手伝いして下さっている。ともに協力しながら、暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどにご家族様をお誘いし、ご本人様とご家族様の絆を大切にしている。ご利用者様の情報を共有し、常にご利用者様に共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人・ご親類の方も御面会に駆られている。ご家族様と自宅に帰られたり、お墓参りや外食にも出かけられている。	家族や友人等の面会があり居室に案内しお茶や椅子の用意をしたり、職員が間に入ることもありゆっくりと過ごしてもらえよう配慮しています。家族と共に自宅近くまでドライブをしたり、馴染みの喫茶店や墓参りなどに行く時は準備などの調整を行っています。また、電話の取次ぎや便箋や切手の準備と手紙の投函等馴染みの関係が途切れないように支援をしています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置等配慮し、日常生活の中で自然と共に関わり支えあっていただけている。孤立しないよう配慮もしている。ご利用者様同士でレクリエーションをお誘いしたり、共同作業も充実している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でお話する機会や、ご近所の方は、施設近くでお話する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向を伺い把握し、意思決定を尊重して頂けるように努めている。ご希望も取り入れるように努めている。	入居前の面談で利用者の今までの生活状況など出来る事や出来ない事、日課、習慣、好み、意向等を所定のシートに、家族に記載してもらい情報を得てアセスメントを行い利用者や家族の思いの把握に繋がっています。入居後は日々の会話の中から利用者の思いを汲み取れるように関わり、申し送りノートに記載し職員間で共通認識を持てるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人の会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。センター方式シートも活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の把握に努めている。申し送りノートや介護支援記録を活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・アセスメントは定期的に実施している。モニタリングは毎月実施。ご本人様やご家族様のご希望もお聞きし、ケアプランを作成している。	本人や家族の思いアセスメントを基に介護計画を作成し入居後1～2か月以内にカンファレンスを行い計画を見直しています。その後は毎月モニタリングと評価を行い、特に状況に変化がなければ6か月ごとにサービス担当者会議を開き再アセスメントを行い計画を見直しています。見直しに当たっては本人や家族、医師、看護師の意見を改めて聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用し、職員間での情報共有を図り、ケアプラン見直し繋げている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院付添等。その時のニーズに応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科や歯科の往診を受けられている。訪問看護も週一回来て頂いている。医師や看護師相談することで、関係が築けている。	以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明していますが、ほとんどの方が協力医の往診を月に2回受けています。専門医の受診は家族が同行しますが、場合により職員も同行し情報提供しています。週1回訪問看護師が健康管理を行い、急変時には連絡し指示を仰ぎ対応しています。希望にそって訪問マッサージや鍼灸医の来訪があり施術を受けたり、訪問歯科による口腔ケアや治療を受けてます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中に体調の変化等あれば、DSの看護師にみて頂いたり指示を仰いだり連携を図っている。訪問看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個人ファイルを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等確認して頂いている。また電話や面談にて、情報交換にも努めている。往診時等に相談や助言も頂き、関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、個別に対応している。往診時に、ご家族様と医師がお話しされる場を持って頂いている。ご家族様のご意向により、他施設への入所申し込み等も行っている。	入居時に重度化の指針についての説明を行い、家族の同意を得ています。重度になった場合には、家族、かかりつけ医、事業所の三者で話し合い家族の希望を聞き状況に合わせて話し合いを重ね相談し方針を決めています。最近では家族の希望で病院を紹介するケースが増えていますが、看取りについての研修も行い体制を整えています。また状況によっては家族が利用者の居室で宿泊することも可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を提示している。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を実施。利用者様も参加されている。全職員は参加できていないが、訓練記録にて伝達勉強会を行っている。災害時には地域の方にもご協力いただけるよう自治会にて話の場を持っている。	年に2回消防署の立会いの下併設するデイサービスと共に昼間及び夜間を想定した訓練が行われ、通報や初期消火、避難誘導、消火器の使い方等の訓練を行いアドバイスをもらっています。訓練時には地域の方に案内し、参加を呼び掛けていますが、参加には至っていません。備蓄の用意もしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには配慮している。各々で理解しているが、少し強い口調等不適切な言葉掛けをしてしまう時がある。	接遇や尊厳、プライバシーに関する研修を行い、居室に入る際にはノックや声掛けを行うことや名前の呼び方、声の大きさや言葉遣い等その方に合わせた対応を指導しています。不適切な対応があれば職員間でも注意をし合えるように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ、ご希望や思いをお伺いし、自己決定して頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にし、ご本人のご希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着る服を選ばれたり、お出かけ前にはオシャレにアクセサリを身につけたり、化粧をされる方もいる。月一回の訪問理美容も、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・下膳・食器拭き等、お一人お一人ができることをお手伝いして下さっている。職員はご利用者様と一緒に食事をし、時に会話しながら楽しい食事の場になるよう努めている。	法人の献立に応じた食材が業者より届けられますが、利用者の希望や日々の会話の中から食べたい物を聞き、冷蔵庫の中にあるものを使い献立を考えています。利用者には野菜の下ごしらえやもやしのひげ取り、味見や後片付け等出来る事に携わっています。職員も同じテーブルで見守りながら一緒に食事を摂り、利用者は和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいます。また個別に外食に出かけ食事を楽しむ機会も設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し、水分量の少ない方など配慮している。野菜を多く使用しよう心掛け、健康管理にも繋がれるよう努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。お声かけや一部介助など、お一人お一人にあった支援を行っている。義歯は夜間に、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を常に心掛け、チェック表を活用し、トイレ誘導の必要な方には、定期的に声掛け誘導を行っている。	排泄の記録を基にパターンを把握し、一人ひとりのリズムに合わせてトイレに案内することで、失敗が少なくなるよう支援しています。また職員間で話し合い、排泄用品の見直し検討を行い自立に向かうよう取り組んでいます。十分な声掛けにより紙パンツから布の下着に変更できた事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やバナナ等を用いた飲み物をお出しし、便秘予防に努めている。食事野菜多めになるよう努めている。身体を動かす機会を持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴して頂けるよう努め、ご本人のご希望やタイミングに沿えるよう配慮しているが、職員の都合になることがある。	入浴は週3回を目処にその日の体調や希望に合わせて支援を行っています。毎回お湯を入れ替え衛生面にも配慮し、季節感を味わえるゆず湯の実施や好みのシャンプー、リンスを用いくつろいだ気分を歌を歌ったり職員と話をしながら入浴を楽しんでもらえるよう心がけています。入浴を拒む方には言葉掛けを工夫したり、職員の交代や時間を変えるなど無理のないよう柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて昼寝をされたり、体調に応じて居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルにて確認。薬変更時はご家族様に報告、申し送りノートを活用し情報を共有している。服薬時は服薬表をチェック、職員間でもダブルチェック確認している。服薬後の症状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や生け花等取り組んで頂く機械を持っている。お誕生日会や季節の行事も実施し楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。家事もお手伝いして下さり、役割を持って頂けるよう支援している。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、外食レク、外気浴等実施している。近所の喫茶店へも出かけている。ご家族様と食事に行かれたり、お墓参りに行かれることもある。	天候と体調に合わせて近隣に散歩に出かけたり、事業所駐車場を外気浴を楽しんでいます。季節の行事では初詣、花見や紅葉狩り、動物園への遠足等外出の機会を設けています。個別での外出や地域で行われる行事には参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はセンターで管理している。外食レクやスーパーで買い物した時等に、代金を支払って頂く機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ご希望時は、おかけしている・手紙が届いた際は、ご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調整し、室温にも配慮している。トイレには分かりやすいよう目印を付けている。イベント時には飾り付けも行っている。廊下には作品展示や行事の写真等を掲載している。	共用空間は毎日換気を行い利用者にも清掃に携わってもらい清潔な環境を保てるように心がけ、利用者の体感を確認しながら室温の調整を行っています。また、塗り絵や書道等の作品や生花が飾られ季節感のある雰囲気となっています。リビングは暖かい色の照明を使い、利用者が集う食卓その他、テレビ前にソファを置き休んだり一人になれる場所を確保しています。また、利用者の状況によりテーブルや椅子の配置を変え心地よい空間になるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でお1人になれる空間はないが、気の合う方と座って頂けるよう座席を配慮している。ソファもあり、お好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、写真等飾られたり、なじみの家具をお持ちになられている方もいる。TVも置かれ、好きな番組を見て過ごされている。	居室は明るく、整頓され毎日換気や掃除をしており清潔感があります。大切にしている仏壇や家族の写真、テレビや趣味の道具、好きな俳句の本や自叙伝、化粧道具を置き、利用者の過ごしやすい居室となるよう配慮しています。また、馴染みの筆筒や椅子等の家具を持って来てもらい家族と相談して配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリーであり、杖や車いすを使用し、各自の身体機能を活かし、過ごされている。居室入口には、各自の名前を確認して頂けるよう担っている。		